



日野病院の孝田雅彦病院長が、さまざまな病気や健康について、その予防法や健康に過ごすための豆知識などお役立ち情報をお届けします。

相次ぐ高齢ドライバーによる事故と軽度認知障害

最近、高齢者の運転による悲惨な事故が相次ぎました。高齢ドライバーの暴走、高速道路の逆走、高齢者の車に妻がひかれ死亡、高齢運転事故、高校生死亡、幼児死亡など、マスコミにも多く報道されました。

認知症と診断された患者は運転をすることはできません。しかし、認知症と診断される一步前の軽度認知障害 (MCI: mild cognitive impairment) は、日本で400万人いると推定されており、これらの方の多くは運転を継続

しています。

次回の免許更新時では遅い？認知症への進行具合

MCIから認知症への進行は、年率3〜4%と報告されています。つまり、毎年14万人が認知症になりますので、免許返納が必要ですが、必ずしも行われていません。

実際に認知症になれば、理解力や判断力が低下するため、運転すべきでないかどうかも自分自身で分からなくなる可能性があります。したがって、認知症になる前に自分でチェックしておきましょう。

「自分は免許の更新時に認知機能検査を通しているから大丈夫」と思っておられるかもしれませんが、次回の更新は3年後になりますので、年率3%で認知症になれば、3年後の更新までに十人に一人が運転すべきではないということになります。

あなたはどうか？軽度認知障害の症状を自分でチェック

ではどうすればよいでしょうか。警視庁のホーム

ページに運転時認知障害・早期発見チェックリスト30があります (https://www.keishicho.metro.tokyo.jp/smph/kotsu/jikoboshi/koreisha/korei_check_list30.html)。

運転に関してMCIが疑われる症状をまとめてあり、30項目中5項目以上あればMCIの疑いとなります。

- 具体的に頻度の多かった項目トップ5は、「①以前ほど車の汚れが気にならず、あまり洗車しなくなった、②好きだったドライブに行く回数が減った、③車のキーや免許証を探し回ることがある、④高速道路を利用することが怖く(苦手)になった、⑤スーパーなどの駐車場

で自分の車を止めた位置が分からなくなることがある」です。

悲惨な事故を起こさないために、あなたができること

65歳を超えたら一度チェックをしてみてください。5項目以上当てはまれば神経内科での精密検査をおすすめします。少しでも早い段階で発見し、本当の認知症への予防対策を行うとともに、交通事故の防止に努めましょう。

一方で、田舎で車がなければ生活できないというのも事実です。政府・自動車メーカーが時速30〜40kmで走る完全自動運転車を開発し、生活道路を走れるように整備してほしいものです。

